

利付債は2,008億円、前年(495億円)比4倍と52年4月(2,313億円)以来の高水準となった。これは、既発債利回りが低下し、新発債応募者利回りを下回るに至ったため個人投資家の購入態度が積極化したほか、金利先安感から中小企業金融機関からの買い引合いも増加したことなどによるものである。

実体経済の動向

◇生産、出荷はともに減少、在庫は増加

(生産—微減)

5月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比^(注)速報)は-0.5%と前月増加(+1.8%)のあと微減となった(前年同月比+9.3%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

5月の生産を財別にみると、一般資本財、耐久消費財は増加となったものの、資本財輸送機械がかなりの減少となったほか生産財、建設財、非耐久消費財も小幅ながら減少した。すなわち、資本財輸送機械はトラック、乗用車を中心に前月大幅増加の反動からかなりの減少となった。また生産財も、鉄鋼製品(冷間仕上鋼材、銑鉄等)、電子部品、繊維原料などが小幅増加となったものの、仮需はく落から出荷減の続いているプラスチック・同製品、段ボール原紙、アルミ圧延品などが減少を続け、前月大幅増加の有機薬品(エチレン、プロピレン等)、非鉄金属鋳物(ダイカスト等)も反動減

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	54年			55年	55年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱 指 数	131.6	134.2	137.7	143.4	142.6	145.2	144.5
工 前期(月)比	2.3	2.0	2.6	4.1	-3.3	1.8	-0.5
業 前年同期(月)比	8.2	8.6	9.1	11.4	10.5	11.6	9.3
投 資 財	2.1	2.6	3.0	3.5	-2.7	1.7	-0.4
資 本 財	2.7	3.3	3.5	4.1	-3.1	2.2	-0.5
同 (輸送機械を除く)	2.5	2.2	3.2	4.3	-0.5	-0.5	1.5
輸 送 機 械	3.9	5.0	6.4	4.4	-11.8	13.2	-7.6
建 設 財	0.6	1.1	2.1	1.7	-2.2	1.1	-0.4
消 費 財	2.5	2.5	3.1	5.2	-6.5	3.5	0.0
耐 久 消 費 財	5.2	6.4	4.3	7.8	-3.9	2.1	1.2
非 耐 久 消 費 財	0.8	-0.4	2.0	2.8	-8.3	5.0	-0.9
生 産 財	2.1	1.3	2.2	3.6	-2.0	1.2	-1.0

(注) 通産省調べ。55年5月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

となったため全体でも減少した。建設財も官公需の低迷などを映じて小棒、セメントなどが減少を続けたことを主因に微減となり、非耐久消費財も石けん、洗剤等の減少が響いて減少となった。

一方、一般資本財は、前月著増の電子計算機、事務用機械が反動減となったが、民間製造設備関連の金属加工機械、繊維機械などは増加を続け、産業用電気機械(標準変圧器等)、通信機械等も増加したため3か月ぶりに増加した。また耐久消費財も、エアコン、小型乗用車などが減少したものの、二輪自動車、軽自動車、時計などが増加したため全体では、前月に引続き増加した。

(出荷—減少)

5月のメーカー出荷(速報)は、-2.2%と前月増加のあとかなりの減少となった(前年同月比+5.6%)。

5月の出荷を財別にみると、一般資本財が3か月ぶりにかなり増加したものの、その他の財は軒並み減少した。すなわち、建設財は官公需、住宅建設の低迷を映じた小形棒鋼、鉄骨、土石製品(コンクリート管、同パイル)、セメントなどの減少を主因に3か月連続の減少となった。生産財はプラスチック、段ボール原紙、非鉄地金・同二次

製品(銅、アルミ圧延品等)、などがユーザー、流通筋の買控えが響き減少を続けたほか、亜鉛メッキ鋼板、合成繊維等も輸出不振から減少したため、全体では前月増加のあとかなりの減少となった。耐久消費財も軽自動車等が増加した反面、主力の小型乗用車、カラーテレビなどが前月大幅増加の反動もあってかなりの減少となり、電子レンジ、冷蔵庫、エアコンなども減少したため、全体ではかなりの減少となった。前月大幅増加の非耐久消費財もニットおよび繊維二次製品、LPG、靴類などを中心に大幅減となり、資本財輸送機械も前月好伸のあとトラックを中心に減少した。

一方、一般資本財は電子計算機や農業用機械等が減少したものの、民間製造設備関連の金属加工機械、繊維機械などが増加を続けたほか、電電公社向けの通信機械(電話交換機等)や建設関連の土木建設機械、圧縮機・送風機等も増加したため、全体では3か月ぶりにかなりの増加となった。

(在庫—増加)

5月の生産者製品在庫(速報)は+3.0%と前月減少(-1.8%)のあと増加し、同在庫率指数(50年=100)も86.1と前月(同、76.7)比大幅に上昇した。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	54年			55年	55年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業指数	129.7	130.8	134.8	139.2	136.9	141.4	138.3
前期(月)比	2.2	0.8	3.1	3.3	-4.8	3.3	-2.2
前年同期(月)比	8.0	7.2	8.7	9.6	7.6	10.5	5.6
投資財	1.5	2.6	3.0	2.0	-5.2	1.0	2.0
資本財	1.2	3.4	4.4	1.5	-6.1	1.8	3.6
同(輸送機械を除く)	0.4	3.9	4.3	0.8	-2.1	-2.3	4.3
輸送機械	3.2	3.2	6.1	0.6	-13.8	14.5	-1.0
建設財	1.8	1.2	1.0	2.3	-3.8	-0.3	-0.9
消費財	3.3	0.6	2.8	6.1	-5.6	6.8	-6.8
耐久消費財	6.6	3.1	4.5	8.8	-3.7	5.8	-3.2
非耐久消費財	1.5	-2.3	2.2	3.6	-7.6	8.2	-8.9
生産財	1.8	0.5	2.7	2.7	-4.0	2.6	-2.2

(注) 通産省調べ。55年5月は速報。
前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	54年(期末)			55年(期末)	55年		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鉱工業指数	100.8	103.2	105.9	107.3	107.3	105.4	108.6
前期(月)末比	-1.4	2.4	2.6	1.3	1.0	-1.8	3.0
前年同期(月)末比	-2.3	1.2	3.8	3.5	5.0	3.3	7.4
投資財	-1.0	-0.3	3.7	1.9	-0.1	4.1	0.7
資本財	1.8	1.8	2.6	4.2	-0.1	4.6	-0.3
同(輸送機械を除く)	0.8	0.3	3.3	5.9	2.0	4.3	1.0
輸送機械	3.7	4.7	1.0	1.6	-4.1	5.3	-2.0
建設財	-4.6	-3.2	3.7	0.9	0.9	2.4	2.3
消費財	-3.5	4.8	8.4	2.6	0.7	-7.5	5.5
耐久消費財	-0.3	6.8	8.0	4.4	0.7	-1.5	2.2
非耐久消費財	-6.2	4.0	6.8	0.8	1.8	-14.2	11.1
生産財	-0.5	2.7	-1.9	-0.5	1.3	0.3	2.1

(注) 通産省調べ。55年5月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

5月の在庫を財別にみると、資本財輸送機械が減少した以外は各財とも増加した。すなわち一般資本財は標準変圧器、金属加工機械が減少したものの、事務用機械、土木建設機械、電動工具が引続き増加したため全体では8か月連続の増加となった。また生産財もソーダ工業薬品(カ性ソーダ等)、石油製品(ナフサ、C重油等)が減少を続けた反面、仮需はく落から出荷減の続いているプラスチック・同二次製品、段ボール原紙、アルミ圧延品が増加傾向をたどり鉄鋼製品(鋼板、鋼帯等)、有機薬品(エチレン、エチレングリコール等)、繊維(合繊、綿糸、毛糸等)なども増加したため、3か月連続の増加となった。建設財も住宅、官公需関連の小形棒鋼、アルミサッシ・ドア、土石製品、セメントなどを中心に3か月連続かなりの増加となった。耐久消費財も軽・小型乗用車がかんりの減少となった反面、民生用電気機械(洗たく機、冷蔵庫、セパレート型エアコン等)、二輪自動車などがかなりの増加を示し、ラジオ・テレビ音響装置(ラジオ、カラーテレビ)も引続き増加したため、全体では前月久方ぶりに減少したあと再び増加した。非耐久消費財も前月著減のあと洗剤、ちり紙、LPGなどを中心にかなりの増加となった。

この間、資本財輸送機械はトラック、小型乗用車の生産減などを映じ前月大幅増加のあと再び減少した。

(民間設備投資——機械受注、一般資本財出荷はともかなりの増加)

5月の機械受注(船舶、電力を除く民需)は、+5.2%と前月(+3.8%)に引続きかなりの増加となった。業種別にみると非製造業からの受注は、前月減少の建設が当月はかなりの増加となったため、+6.3%とかなりの増加となった。また製造業からの受注も、鉄鋼が前月著増の反動から大幅減少となったものの、自動車、石油・石炭が増勢を持続したため、全体では、前月(+21.8%)並みの高水準を続けた(-0.7%)。

なお電力からの受注は、前月比3.0倍と著申し

需要先別機械受注・建設工事受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	54年		55年	55年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民需	5,026 (-3.4)	5,321 (5.9)	5,094 (-4.3)	4,409 (-13.9)	5,822 (32.0)	7,630 (31.1)
同(船舶・電力を除く)	3,680 (-4.7)	4,102 (11.5)	4,290 (4.6)	4,204 (-0.7)	4,363 (3.8)	4,592 (5.2)
製造業	1,867 (-7.4)	2,201 (17.9)	2,363 (7.3)	2,292 (-3.9)	2,793 (21.8)	2,773 (-0.7)
非製造業	3,123 (-1.2)	3,109 (-0.5)	2,790 (-10.3)	2,319 (-16.0)	3,007 (29.6)	4,834 (60.8)
同(船舶・電力を除く)	1,822 (-2.4)	1,905 (4.5)	1,923 (1.0)	1,889 (1.3)	1,754 (-7.1)	1,865 (6.3)
建設工事受注(民間)	3,488 (-5.9)	3,532 (1.3)	4,292 (21.5)	3,569 (-25.9)	4,462 (25.0)	3,655 (-18.1)

(注) 機械受注は経済企画庁調べ。建設工事受注は建設省調べ(43社ベース)。カッコ内は前期(月)比増減(一)率(%)。

た。

一方、5月の建設工事受注額(民間分、速報)は、-18.1%と前月大幅増加(+25.0%)の反動から減少した(前年同月比+4.1%)。

5月の一般資本財出荷(速報)は、+4.3%と3か月ぶりにかなりの増加となった。品目別にみると民間製造設備関連の金属加工機械、事務用機械などが引続き増加したほか、前月大幅減少を示した化学機械も今月は増加した。

◇小売商況は引続き堅調

5月の全国百貨店売上高(通産省調べ、速報、前年比)は衣料品が夏物衣料を中心に持直したほか、食料品、家庭用品等も好伸したため、+10.1%と再び2けた台の伸びを示した。(前月+7.9%)6月入り後も、衣料品の伸びがやや鈍化したものの、中元贈答関連需要(食料品等)を中心に引続き堅調な伸びを続けた模様である。

6月の主要耐久消費財の販売状況を見ると、乗用車新車登録台数(軽を除く、速報、前年比)は、主力の小型車の伸び悩みから-5.9%と3か月連続して前年水準を下回ったが家電製品はエアコンを除き総じて好調な売行きを示した。

◇商況の基調——続落

6月の商品市況を見ると、薄板が上伸したもの

の、条鋼類、非鉄、天然繊維(綿糸、毛糸)、石油製品・合板等多くの品目が続落したほか、厚板、石油化学製品、紙も反落ないし弱含みとなるなど、全体としては続落商状となった。

これは、①海外原料品市況の続落や円高の進行などに伴う原材料コストの低下が市況下押し要因として作用したこと(非鉄、天然繊維、製材品、条鋼類)が前月同様大きく響いている。このほか②実需面では、梅雨入りという季節要因も加わり公共・住宅投資が引続き低調裡に推移している(棒鋼、塩ビ、合板)うえ、一部素材品目では、円高や海外景気後退の影響から輸出がすでに頭打ち

ないし減少していること(棒鋼、合織、石油化学製品)、③これら事情を背景とした先安観の強まりから流通・ユーザー筋では在庫調整的な動きが引続きみられたこと(条鋼類、段ボール原紙、石油化学製品、製材品)、④一方、供給面では引続きある程度の採算を確保していることもあって減産にはなお及び腰の先が多い(棒鋼、綿糸、塩ビ、合板)ほか、円高進行に伴い安値輸入品の流入も増えていること(製材品、段ボール原紙)、などから市中に需給緩和感が広がったことも響いている。

(卸売物価—小幅続落)

6月の卸売物価は前月比-0.1%と前月に続き

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウェイト	55年		55年				
		1~3 月平均	4~6 月平均	2月	3月	4月	5月	6月
総平均	1,000.0	6.5	4.8	2.6	2.0	2.7	-0.2	-0.1
食料品	140.9	2.3	3.5	1.8	1.2	1.2	1.4	0.1
非食料農林産物	18.9	8.4	-2.0	4.1	1.3	-0.2	-2.9	-6.0
繊維製品	62.9	2.2	2.6	1.6	0.8	1.6	0	-0.6
製材・木製品	33.6	6.2	1.4	3.1	2.1	0.3	-0.5	-2.8
パルプ・紙・同製品	28.9	11.2	11.1	6.6	3.8	4.4	1.9	1.2
金属素材	12.6	13.3	-10.3	8.2	-5.2	-4.6	-4.9	-5.3
鉄鋼	80.7	2.5	5.7	1.3	1.3	5.6	-0.9	-1.5
非鉄金属	26.1	23.5	-11.1	7.8	-4.8	-6.8	-5.1	-1.3
金属製品	37.0	1.9	5.0	0.7	2.4	2.4	0.7	1.2
電気機器	73.3	0.6	1.1	0.2	0.4	0.6	0.3	0
輸送用機器	74.0	0.4	0.0	0.4	0.3	0.5	-1.2	0
一般・精密機器	95.7	0.9	1.6	0.2	0.6	0.8	0.4	0.3
化学製品	91.1	5.3	6.0	2.4	2.5	3.0	0.7	0.1
石油・石炭・同製品	102.2	22.7	10.1	6.6	7.2	2.9	-0.4	0.8
窯業製品	30.5	3.5	7.5	0.8	6.1	2.5	0.8	0.1
電力・ガス	25.5	6.2	43.5	1.8	1.5	41.4	0.3	-1.0
雑品目	66.1	4.8	2.8	1.3	1.8	0.3	0.2	2.2
工業製品	816.4	5.1	4.3	2.0	2.0	1.9	0.5	0.2
大企業性製品	579.9	4.9	4.9	1.8	2.0	2.4	0.6	0.3
中小企業性製品	214.6	4.0	3.8	2.2	2.0	1.3	0.6	-0.3
非工業製品	158.1	12.6	1.5	5.1	2.7	0.1	-2.5	-1.1
国内品	801.9	4.6	5.9	1.9	1.9	3.1	0.9	0.5
輸出品	94.2	2.8	-0.4	2.0	1.7	1.6	-4.1	-2.7
輸入品	103.9	21.0	1.7	7.3	2.9	1.1	-3.9	-2.6

(注) 日本銀行調べ。

小幅ながら下落し、前年同月比でも +20.3% (前月 + 21.9%) と伸び率がやや低下した。

これは、海外市況や円高の影響から金属素材、原木、鋼材等の輸出入品が統落したほか、非鉄、木材等国内市況性商品も軟化したことによるもの。この間、完成品は原材料コスト高の製品価格への転嫁が新聞、機械、化学製品等で進行したため、前月比 +0.7% と引続きかなりの上昇となった。

(消費者物価——6月<東京都区部>は、の0.1%上昇)

6月の消費者物価(東京都区部、速報)は、季節商品が野菜を中心に統落したものの、被服、雑費の値上りなどから前月比 +0.1% の上昇を示し、前年同月比でも +8.3% と伸び率を高めた(前月 +7.7%)。被服の値上りは夏物衣料への品目入替えによるものであり、また雑費は新聞代、入浴料金引上げが響いて上昇した。

◇総合収支の赤字は大幅縮小

5月の国際収支(季節調整前)は、輸入の高水準持続にもかかわらず、輸出の好伸から貿易収支の赤字が664百万ドルと前月(同831百万ドル)に比べやや縮小したため、経常収支の赤字幅は1,773百万ドルとなった(前月同1,924百万ドル)。この間、長期資本収支は為替相場の円高化等を映じた対日証券投資の増加を主因に大幅流入超(979百万ドル、前月2,240百万ドルの流出超)となったほか、短期資本収支も流入超(334百万ドル、前月638百万ドルの流出超)となったため、総合収支は赤字幅を大幅に縮小した(247百万ドル、前月同5,376百万ドル)。

なお、5月の季節調整後の貿易収支は輸出の好伸から11か月ぶりに黒字を記録した(124百万ドル、前月715百万ドルの赤字)。

この間、外貨準備高は21,404百万ドルと前月に引続き増加した(前月末比 +2,489百万ドル)。

消費者物価指数の推移

(前月<期>比騰落率・%)

	ウェイト	55年		55年			最近月の 前年 同月比	
		1~3月 平均	4~6月 平均	4月	5月	6月		
東 京	総合	100.0	2.0	2.9	1.8	0.7	* 0.1	* 8.3
	季節商品を除く総合	91.9	0.9	5.0	3.2	1.5	* 0.7	* 8.8
	(季節商品)	(8.1)	(12.5)	(- 15.5)	(- 10.9)	(- 7.0)	(* - 7.1)	(* 2.2)
	食料	40.1	3.9	- 2.0	- 2.0	0.9	* - 1.5	* 4.5
	住居	11.1	1.3	2.3	1.2	0.8	- 0.1	5.2
全 国	光熱	4.2	2.6	38.7	37.2	0.6	0.1	48.2
	被服	12.4	- 2.1	4.5	1.4	4.2	1.9	10.0
	雑費	32.2	1.3	4.1	2.3	1.5	* 1.2	* 8.1
	総合	100.0	2.2	...	1.7	0.9	...	8.2
特 殊 分 類	季節商品を除く総合	91.7	1.0	...	2.7	1.7	...	8.8
	(季節商品)	(8.3)	(12.7)	(...)	- 6.1	(- 7.5)	(...)	(2.6)
	農水畜産物	16.3	7.7	...	- 4.1	- 4.7	...	2.7
	工業製品	46.6	0.7	...	1.4	3.0	...	9.6
	うち大企業性製品	21.4	2.3	...	1.0	3.1	...	12.7
	中小企業性製品	25.2	- 0.5	...	1.7	2.9	...	7.2
	サービス	33.6	1.4	...	5.1	0.9	...	9.5

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *印は速報。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	54 年		55 年	55 年			前年同月
	7~9月	10~12月	1~3月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	△ 3,229	△ 3,688	△ 5,810	△ 1,238	△ 1,924	△ 1,773	△ 889
貿 易 収 支	△ 355	△ 1,013	△ 2,593	△ 43	△ 831	△ 664	△ 4
輸 出	26,059	27,828	26,718	10,483	9,892	10,298	8,116
輸 入	26,414	28,841	29,311	10,526	10,723	10,962	8,120
貿 易 外 収 支	△ 2,617	△ 2,402	△ 2,724	△ 902	△ 1,001	△ 946	△ 802
移 転 収 支	△ 257	△ 273	△ 493	△ 293	△ 92	△ 163	△ 83
長 期 資 本 収 支	△ 1,877	△ 3,782	609	△ 1,329	△ 2,240	979	△ 845
本 邦 資 本	△ 3,970	△ 3,549	△ 2,211	△ 1,267	△ 823	△ 431	△ 1,128
外 国 資 本	2,093	△ 233	2,820	△ 62	△ 1,417	1,410	283
基 礎 的 収 支	△ 5,106 (△ 5,754)	△ 7,470 (△ 8,070)	△ 5,201 (△ 4,477)	△ 2,567 (△ 3,770)	△ 4,164 (△ 4,048)	△ 794 (△ 6)	△ 1,734 (△ 1,019)
短 期 資 本 収 支	1,268	1,169	891	28	△ 638	334	182
誤 差 脱 漏	117	762	△ 1,282	9	△ 574	213	798
総 合 収 支	△ 3,721	△ 5,539	△ 5,592	△ 2,530	△ 5,376	△ 247	△ 754
金 融 勘 定	△ 3,721	△ 5,539	△ 5,592	△ 2,530	△ 5,376	△ 247	△ 754
外 貨 準 備 増 減	356	△ 5,008	△ 1,784	△ 2,228	372	2,489	△ 1,915
そ の 他	△ 4,077	△ 531	△ 3,808	△ 302	△ 5,748	△ 2,736	1,161
外 貨 準 備 高	25,335	20,327	18,543	18,543	18,915	21,404	24,192
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 19,865	△ 20,262	△ 23,926	△ 23,926	△ 29,539	△ 32,401	△ 14,803

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸出認証	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状		届 出
54年 7~9月平均	8,601 (+ 4.5)	8,936 (+ 17.7)	△ 335	8,723 (+ 4.2)	9,814 (+ 14.3)	6,501 (+ 3.1)	9,057 (+ 4.6)	10,708 (+ 21.2)
10~12 〃	8,825 (+ 2.6)	9,362 (+ 4.8)	△ 537	8,929 (+ 2.4)	10,571 (+ 7.7)	6,892 (+ 6.0)	9,600 (+ 6.0)	11,283 (+ 5.4)
55年 1~3月平均	9,338 (+ 5.8)	9,961 (+ 6.4)	△ 623	9,663 (+ 8.2)	11,188 (+ 5.8)	7,341 (+ 6.5)	10,039 (+ 4.6)	13,209 (+ 17.1)
55 年 2 月	9,618 (+ 6.0)	10,068 (+ 8.8)	△ 450	10,127 (+ 7.9)	11,716 (+ 10.5)	7,680 (+ 9.1)	10,356 (+ 9.6)	13,805 (+ 6.0)
3 〃	9,327 (- 3.0)	10,564 (+ 4.9)	△ 1,237	9,480 (+ 6.4)	11,241 (- 4.0)	7,305 (- 4.9)	10,313 (- 0.4)	12,793 (- 7.3)
4 〃	9,823 (+ 5.3)	10,538 (- 0.2)	△ 715	10,146 (+ 7.0)	12,154 (+ 8.1)	7,187 (- 1.6)	10,754 (+ 4.3)	13,860 (+ 8.3)
5 〃	10,585 (+ 7.8)	10,461 (- 0.7)	124	10,879 (+ 7.2)	11,567 (- 4.8)	7,484 (+ 4.1)	10,819 (+ 0.5)	13,850 (- 0.1)

- (注) 1. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 2. 輸出信用状受高および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

(輸出——好伸)

5月の輸出(国際収支ベース、季節調整済み)は+7.8%と前月増加(+5.3%)のあとさらに増勢を強めた(原計数の前年同月比は+26.9%)。品目別(通関ベース)にみると、前月著増の二輪自動車、肥料が反動減を示したものの、船舶が新造船の引渡し集中から大幅に増加したほか、鉄鋼、自動車、テープレコーダー等もかなりの増勢を持続した。

なお、6月の輸出信用状接受高(季節調整済み)は前月増加(+4.1%)のあと-6.5%の減少となった。品目別には、繊維製品は小幅増加となったも

の、鉄鋼、化学製品、電気機械、自動車等は減少を示した。

(輸入——微減)

5月の輸入(国際収支ベース、季節調整済み)は-0.7%と前月(-0.2%)に引続き微減となった。品目別(通関ベース)には、鉄鋼原材料(鉄鉱石、石炭等)や非鉄金属鉱が前月入着集中の反動もあってかなり落込んだほか、原油も数量減を主因に小幅ながら前月に続き減少した。

なお、6月の輸入承認届出額(特殊大口除外、季節調整済み)は、-5.0%と前月(-0.1%)に引続き減少を示した。